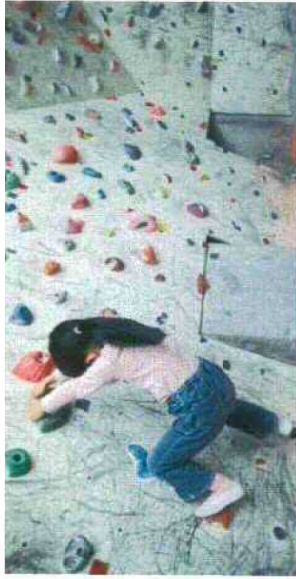


## A-4 北九州子どもはつらつ元気館概要

### ●プレイホール+キヤリア体験ブース2階 (プレイコリドール)+レクチャースペース・見守りデッキ (2階)

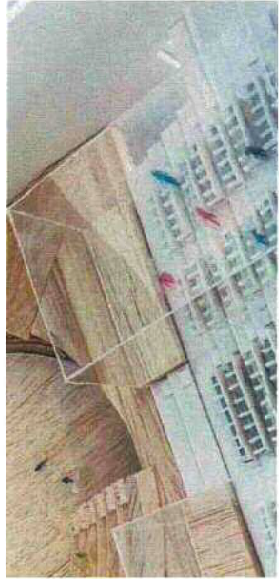
プレイホールは2層構造となっており、ネット遊具、子どもエレベーター、キヤリア体験ブース上部のプレイコリドール等で子どもたちが、人空間を利用して立体的に思いきり遊べる空間とする。



ボルダリング遊具 (参考写真)



子どもエレベーター (いわき市子ども元気センター)



レクチャースペース兼見守りデッキ イメージ (八幡市民会館学生リノベーション提案「八幡子どもみらい館」)

### ●ヤングスターフリースペース

WiFiが整備された中高生専用の居場所を提供する。中高生のプレイリーダーも育成する。



ヤングスターフリースペース  
(武蔵野プレイス・ティーンズスタジオ)



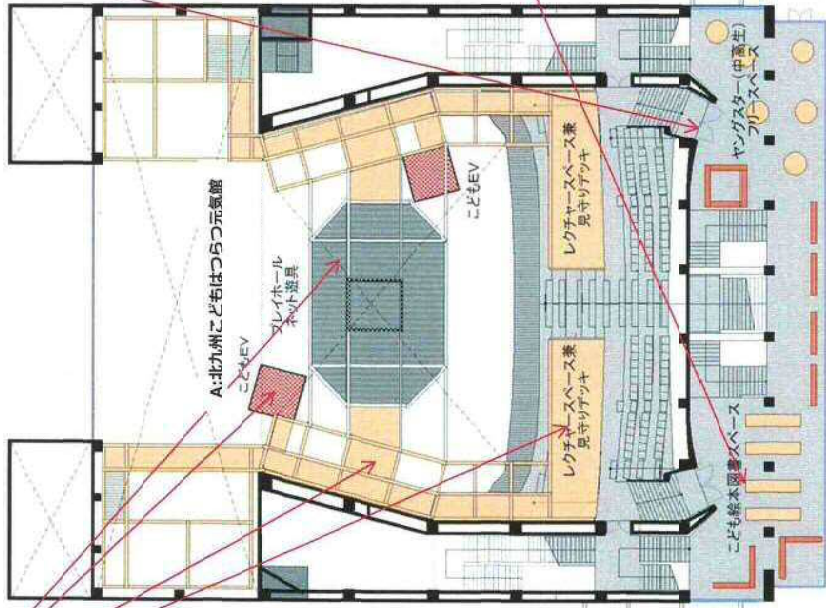
ヤングスターフリースペースイメージ  
(レイジアナ美術館)

### ●子ども絵本図書コーナー

絵本やアニメも含む、子ども専用の図書や工作、アート等の居場所とする。



子ども図書・ワークスペースイメージ (レイジアナ美術館)



2階平面図



## A-5 北九州子どもはつらつ元気館概要

### ●キャリア体験ブース&コリドール

キッズニアやかまほこミュージアムのような、子どもたちの職業体験の場を北九州市に関連する企業等と連携整備する。

### ●ヤングスターフリースペース

WIFIが整備された中高生専用の居場所を提供する。

### ●子ども絵本図書コーナー

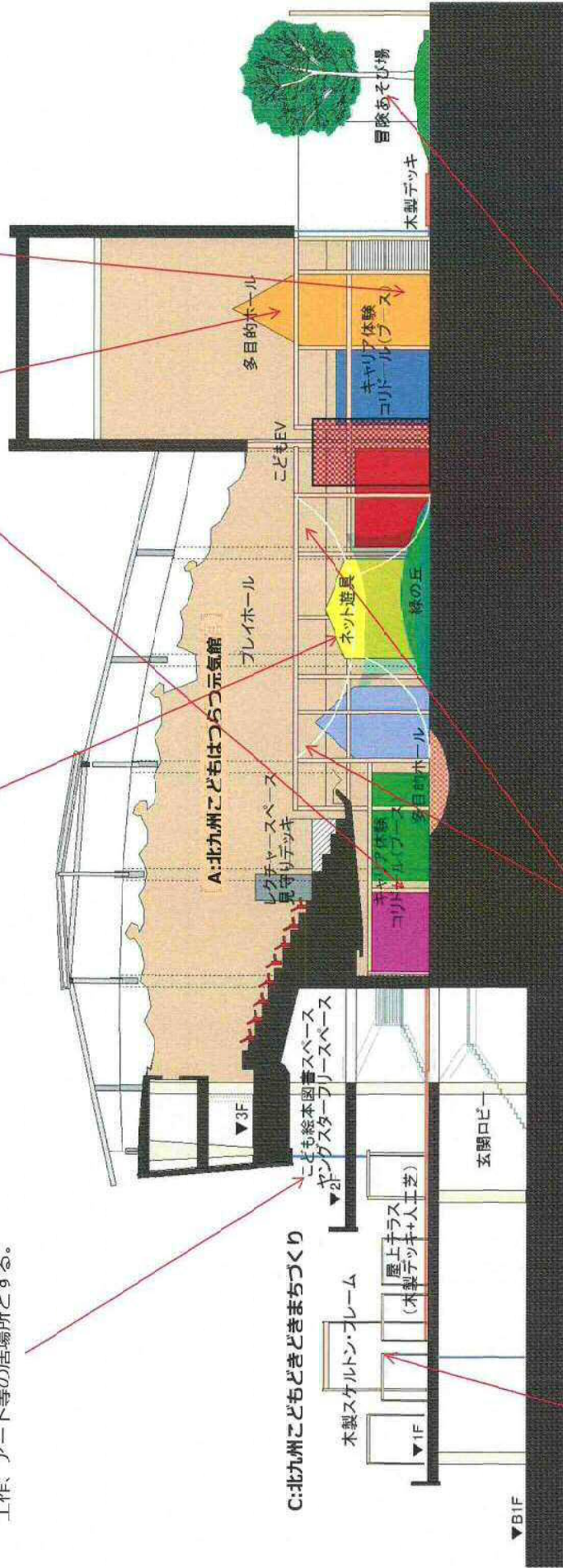
絵本やアニメも含む、子ども専用の図書や工作、アート等の居場所とする。

### ●プレイホール

プレイホールは2層構造となっており、ネット遊具、子どもエレベーター、ボールプール、緑の丘等で子どもたちが、大空間を利用して立体的に思いきり遊べるスペースとする。

### ●多目的ホール

現状のステージ部分を多目的ホールのなスペースとして活用する。



### C:北九州子どもどきどきまちづくり

子ども絵本図書スペース  
ヤングスターフリースペース

木製スケルトン・フロアム

屋上テラス  
(木製デッキ+人工芝)

▼1F

玄関ロビー

▼B1F

### ●芝生テラス (北九州子どもどきどきまちづくり)

屋外テラスは全面人工芝とし、そこに木造のスケルトンフロアを設置しておくことで、北九州子どもたちの屋外イベントに対応できる空間を整備する。(平常時は、ババママ・カフェテラスとして整備し、子育て世代の居場所とする。)

### ●木質空間

現状のホールの木質空間のやさしさを更に活かすために、新設部分は原則、木質空間化することで、子どもにやさしい木育の場を提供する。

### ●冒険あそび場・自然あそび

現在のステージ南側の楽屋等の一部を自然換気の意味も含めて撤去した後、そこに、冒険あそび場を新設し、自然遊びや環境学習としても応用可能な施設とする。

断面図



## B-1 北九州わくわくミュージアム（北九州都市建築博物館）概要

北九州市は、戦後の日本の急激な高度成長を産業で支えてきた日本の都市近代化の象徴的な都市であり、ここは、急激な発展とその後の衰退により蓄積されてきた多くの近代化遺産、産業化遺産の宝庫でもある。そして、その中には世界文化遺産となった「官営八幡製鉄所関連施設」や「門司港レトロ地区」や八幡市民会館のような近代建築遺産が多く存在していることや、多くの人々が都市に居住、集積した結果として育まれてきた無形文化財も多く存在し、2016年には、「戸畑祇園大山笠」が世界無形文化遺産登録決定されている。

しかしながら、これらの世界文化遺産、近代建築遺産、世界無形文化遺産について、市民が日常的にその歴史を学んだり、情報を共有することで、過去の遺産から未来の地域資源としての活用再生を議論し、明日の北九州について皆で考えていくような居場所がないことも事実である。

今回、提案する北九州都市建築博物館は、北九州の戦後の発展の象徴である八幡製鉄を背後にした八幡駅前の重要な都市軸上にある場所に、日本を代表する建築家、村野藤吾が設計した優れた初期の代表建築作品であり、明日の北九州のまちや建築、すまいを、市民全員が考えていく場として、これ以上相応しい場所はないものと考ええる。

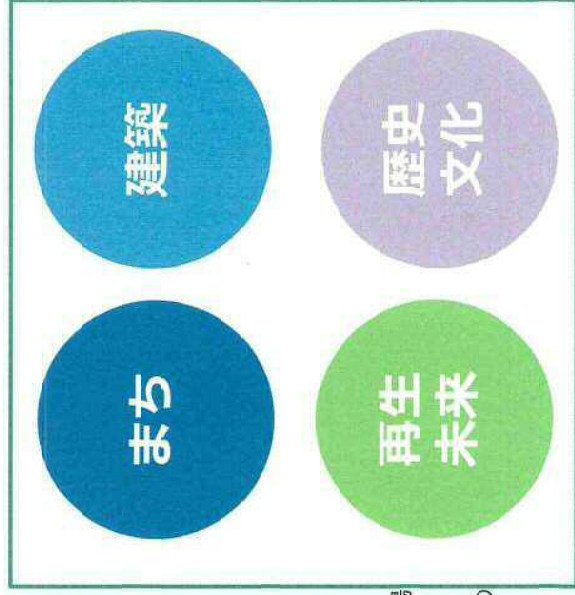
その意味で、ここは、未来の北九州のまちづくりの拠点となりえる場所であり、そこに隣接する「北九州こどもはつらつ元気館」と連携することで、未来のまちづくりの担い手であるこどもたちや子育て世代を巻き込んで、まちやすまい、地域について考えていく場として提案したい。また、更に近隣には「JICA九州」、「九州国際大学」等があることもあり、北九州市へのインバウンド（訪日観光客）の来訪先として可能性も検討していく。

### 【まち】

- ・近代都市発展軸
- ・まちづくりの拠点
- ・こどもにやさしいまち
- ・インバウンドによる観光まちづくり
- ・C R C 高齢者にやさしいまち
- ・防災まちづくり
- ・景観まちづくり

### 【再生未来】

- ・衰退から再生への議論の場、連携の場
- ・都市間競争、定住化促進
- ・地域資源を活かした都市観光
- ・こどもから子育て世代、高齢者までの市民参加連携
- ・北九州インバウンドの来訪拠点



### 【建築】

- ・近代建築遺産
- ・村野藤吾記念館
- ・住宅・建築相談センター
- ・空家バンクセンター
- ・建築とこどもたち

### 【歴史文化】

- ・世界有形文化遺産
- ・世界無形文化遺産
- ・日本近代史
- ・近代建築史
- ・多くの祭りと文化
- ・長崎街道

### 【地域建築博物館構想について】

JIA(日本建築協会)は地域建築博物館設立の趣意書を2015年に発表しています。それを掲載します。

地域建築博物館設立の提案  
NPO建築文化継承機構  
JIA-KIT建築アライアンス委員会  
代表理事・議長 仙田 満

### 趣旨

地域における建築文化財が都市・社会変化の中で急激に失われていきます。機能的にまだ十分使えるにも関わらず、それを利用し続けられない状況も見受けられます。建築文化財を持ちこたえる力が地域に失われていることも事実です。一方、我が国は観光立国を掲げ、地方創生の時代ともいわれ、地域の歴史的景観や資源を観光という視点でとらえ直し、即ち活性化につなげなければなりません。そこで、地域の産業資源として、また建築文化継承拠点として活用するため、地域の有力な建築文化財を地域の建築博物館として設立することを提案します。

### 目的

地域建築博物館は地域の建築文化向上、地域の観光を含めた産業振興、町並形成、建築教育の普及、地域の建築まちづくり文化財の保全に寄与することを目的とします。

### 設立の仕組み

建築文化財を自治体が寄贈をうけ、あるいは購入し、あるいは賃借します。できれば自治体により適切に補修、改修されるのが望ましいと考えます。その他、民間あるいはNPO等という形で設立される場合もあります。とらにしろ所有者の寄贈や購入、賃借を受ける必要があります。

JIA地域会が運営等について最大限協力します。  
シニア会員等によるボランティアや有償協力も考えられます。

### 活動

- ① 地域のまちづくり建築文化財の広報
  - ・観光資源として地域の建築文化財を利用してもらうための情報拠点
  - ・ガイドマップ、ガイドブック/プレットの制作発行
- ② 地域建築文化財の展示
  - ・図面、建築家の活動、建築技術の広報
- ③ 地域建築(設計)相談
- ④ 地域建築文化財の保全活動
- ⑤ 地域建築設計文化財の保全活動
- ⑥ 地域の建築、まちあるきのガイド紹介
- ⑦ 地域建築産業の紹介
- ⑧ 建築、まちづくり教育の普及
- ⑨ その他
  - ・こどものための建築、まちづくり教室の開催等
  - ・建築、まちづくりに関する広報、相談

### ○参考事例

各地での地域博物館のイメージに近い活動を行っているところも少なくないと思います。たとえば横浜市でBankART Studio NYKという拠点として使われてきています。BankART Studio NYKは日本郵船横浜港運倉庫を横浜市が賃借し、運営母体に無償で貸与し、補助金を交付しています。又金沢市では、金沢市建築博物館を新たにづくり、観光の資源にしようとしています。